

# 「心を一つに挑戦する年」



木古内町長

鈴木慎也

令和6年の新春を謹んでお慶び申し上げます。

皆さまにおかれましては、穏やかな新春をお迎えのことと存じます。

「甲辰」の年は、「春の日差しが、あまねく成長を助くる年」です。春の暖かい日差しが大地すべてのものに平等に降り注ぎ、急速な成長と変化を誘う年になると言われております。

本年も心を一つに持続可能な町づくりに挑戦してまいります。

昨年を振り返りますと、木古内中学校吹奏楽部が2年連続の全国最優秀賞に輝き「子ども達の活躍は町の希望」であると感じております。

また一昨年の「咸臨丸の船遺産」に続き、193年続く「寒中みそぎ神事」が北海道の無形民俗文化財に指定されるなど先人たちのこれまでの功績や努力に深く敬意を表し、あらためて感謝の念を抱いたところであります。

本年9月開催予定のトライアスロン国際大会の誘致が決定し、町の新たな

可能性を感じているところですが、町民の皆様におかれましてもご協力をお願いいたします。

官民学の連携によりサーモン種の養殖や、風力発電、ワイン、アウトドアアクティビティなどが進んでおり、引き続き「挑戦の先に確かな未来はある」の精神で邁進いたします。

近年、異常気象が多く、当町でも自主防災組織の設立や防災意識の向上に努めておりますが、日本海溝・千島海溝沖の最大クラスの地震、津波や北朝鮮のミサイル想定など、さらなる防災力強化に取り組んでまいります。

光熱費や物価の上昇など、町民生活への影響を軽減するため、エール支援金給付やエール商品券事業を行ったほか、移住定住対策として「みらいある条例」を制定してから移住者が増加傾向にあり制度の効果を実感しております。

農業では、記録的猛暑により米やハウス野菜が品質低下や不作に陥り、漁

業では海水温上昇などにより秋シヤケが減少しました。しっかりと寄り添い、課題解決に向け対応してまいります。昨年のきこない大産業魅力フェアは、町内外から約4千人が訪れ、はこだて和牛や姉妹都市鶴岡市の特産品などの販売に加え、木育、シヤケの掴み取り、吹奏楽、ダンス、大食い大会など手作りのイベントが大好評で関係者と来場されたみなさんに感謝しております。

観光客数、交流人口は増加傾向となっており、引き続き、新たな観光資源の開発と町内周遊や広域観光を促進する取組みを行ってまいります。

医療介護福祉の働き手確保や処遇改善を図りながら、持続可能な高齢者の安心・安全な生活を守るため、高齢者福祉サービズ利用券、不整脈をAIで分析するバイタルトラッカーや特殊詐欺防止のための電話機購入支援、補聴器購入補助などを継続して行います。

教育では、未来を担う子どもたちには、新しい時代に適した学習指導要領に基づき、英語学習やプログラミング学習にもしっかり取り組むとともに、高校や大学との連携を強化していきま

す。食育や木育など豊かな自然を生かし

た体験活動や社会の変化を柔軟に受け入れることができる学習環境を充実させ、町民一人ひとりが生涯にわたりにきいきと活躍する学びの場を作りあげるため尽力してまいります。

今年、姉妹都市山形県鶴岡市と盟約を結んでから35周年となります。これまで様々な交流を重ね絆を深めてまいりましたが、これからも先人たちの労苦に感謝しながら「心の交流」を続けてまいります。

私が町長に就任してから3年9ヶ月が経過し、この間、今を守り未来を創る様々な新しい事業に全力で取り組んでまいりましたが、施策の推進には、私自身の政治理念はもとより、町民のみなさまからの意見や考えを聴くことが極めて大切でありますので今後「お出かけ町長室」や「GOTO町長室」の取組みを続け、みなさまの声を聴きカタチにしていきたいと思います。

結びに、これからも町民みなさまのお力添えをいただき「今と未来の為に持続可能なまちづくり」の実現に向け、全力で挑戦し続けることをお約束すると共に、町民みなさまのご健勝ご多幸を祈念して年頭のご挨拶と致します。

「全ては町民の皆様のために」